

第 21 回 サセックス大学教育学部国際教育プログラム (University of Sussex, School of Education, MA in International Education) について

国際教育センター(Centre for International Education)を持つサセックス大学教育学部には、途上国の教育開発を専攻することができる国際教育プログラム(修士課程 1 年間)があります。国際教育とだけ聞くと、どんなことを勉強できるのか今ひとつピンと来ませんが、センター長のキース・ルーイン教授をはじめ、教授・講師陣は途上国の教育を中心に、精力的なリサーチを行っている方々ばかりです。また、本プログラムが途上国の教育開発を中心に学ぶことができるプログラムであることは、教授・講師陣が、同じくサセックス大学内にある開発学研究所(Institute of Development Studies)と協力関係にあることから明らかです。

ロンドン大学教育研究所やイーストアングリア大学のように、「開発と教育」というような分かりやすいタイトルをつけてくれば、もっと学生も集まるのではないかと教授の一人に聞いたところ、「サセックス国際教育」というブランド自体が「開発と教育」を学ぶためのものだし、歴史的なものだから簡単に変えられない、という不思議な説明をされました。

このプログラムに在籍している学生は、今年は 11 名です。出身国を見ると日本が 7 名と圧倒的に多く、オーストラリア、カナダ、マレーシア、パプアニューギニア各 1 名となっています。アフリカからの学生は、今年は残念ながらいませんでしたが、みな異なったバックグラウンドから途上国の教育問題に取り組んでいます。

途上国の教育問題といっても様々ですが、秋学期は「教育と国家開発(Education for National Development)」という必修科目があり、教育の文脈で開発問題の主なものを一通り学べるようになっています。今年度のセミナーの題目を見てみると、1)開発の意味、2)教育と開発におけるパターン、問題、そして課題、3)教育開発に対する歴史的展望、4)グローバリゼーションと教育、5)文化、教育そして開発、6)教育と経済発展、7)学歴病 - 見方、分析、そして解決策、8)教育と HIV/AIDS、9)教育政策とその実践における経済とガバナンスの諸問題 - 市場化、民営化、市民参加と地方分権化、となっています。毎回、大量の文献が提示され、その内容に基づき講義、討論、発表、などを組み合わせるセミナーは 3 時間ほどかけて行われます。評価は 7,000 語のタームペーパーで行われます。これ以外には、2 日間の「団体分析(Organisational Analysis)」が 10 月にあり、3,000 語のペーパーを 11 月上旬に提出します。また、最低 2 つの選択科目も受講することになります。より専門的に勉強するこの選択科目には、A)カリキュラム開発(Curriculum Development)、B)教師教育(Teacher Education)、C)評価と試験(Assessment and Examinations)、D)ジェンダーと教育(Gender and Education)、E)初等教育(Primary Education)、があり、またこの選択した科目の中から最低 1 科目を春学期にも継続し、さらに専門性を高めることが出来ます。学生数が少ないことも手伝って、より参加型のセミナーであるのが特徴です。

春学期の必修科目は「教育の研究と評価(Research and Evaluation in Education)」で、ここではリサーチに関する基礎的なスキルを身に付けることを目的としています。学期中には2週間のリサーチ実習があり、学んだことをイギリス国内の教育機関で実践する機会も与えられ、ここで収集したデータを使って10,000語のリサーチペーパーに仕上げます。4月の最終週から夏学期が始まりましたが、前半に「計画的変革の管理(The Management of Planned Change)」と「国際教育における革新と課題(Innovations and Issues in International Education)」といった必修のセミナーに出席しつつ、修士論文(20,000語)の完成を目指します。

IDSのオープンセミナーに出たり、ロバート・チェンバース教授のワークショップに参加したり、いろいろな刺激を受けながら「開発と教育」を学べるのが、ここサセックスの国際教育プログラムの特徴です。課題ごとのチュートリアルもマン・ツー・マンでしっかり指導してもらえます。毎週、スタディ・スキルの時間には必修プログラムと連動した内容でフォローアップもあります。また1月からはガーナ人の教授も着任しました。アットホームな雰囲気の中、ますます刺激あふれる「サセックス国際教育」です。

2004年5月11日

国際教育修士課程

佐藤訓子、座波圭美、正楽藍、白石恵子、杉山悠子、相馬敬、前田知子

